

有明工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	特別実習Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0057		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	: 1		
開設学科	生産情報システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	実習現場にて配付される資料					
担当教員	岩本 達也, 尋木 信一, 内海 通弘, 菅沼 明, 松野 哲也, 森 紳太郎, 松野 良信, 嘉藤 学, 原 武嗣, 石川 洋平, 森山 英明, ゴーチェ ロビック					
到達目標						
1. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。 2. 実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組み、実習現場において経験する実務上の課題を解決し、適切に対応することができること。 3. 実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を明確に理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、その本質を理解できない。	
評価項目2	実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、主体的に取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための適切な対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、取り組むことができ、実習現場において経験する実務上の課題を解決するための対応ができること。		実習現場において、現場担当者から与えられた課題に対し、自ら取り組むことができない。	
評価項目3	実習の成果を口頭発表およびレポートで詳細に説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できること。		実習の成果を口頭発表およびレポートで説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習教育到達目標 A-3 学習教育到達目標 B-2 学習教育到達目標 C-1						
教育方法等						
概要	専攻科を修了する学生は、将来的には、多くの企業において技術者として働く可能性が高い。学外で実習を体験することで、企業における技術者の役割や実務内容を実際に見聞し、また一部を体験することによって、学校の勉学では得ることが難しい技術者になるために必要な情報を得ることができる。また、現場の従業員と接することにより、企業人、社会人としての心構えを身につけることもできる。つまり、企業人と一緒に数日間、生活を共にすることにより、仕事の分野、各担当部門の役目、守らねばならない規律、そして現在の企業で行われている技術水準など多彩な情報が得られる。まさに“百聞一見に如かず”である。また、その情報から省みて、今、学校で学習しておくべきことが明確に把握できると思われる。自分の将来の進路あるいはどのような技術分野に進もうとしているのかを見極めるためにも、それにふさわしい実習先を開拓する必要がある。企業側の受け入れも様々な状況や事情を抱えているので、早めにコンタクトを取り、実習先を決定する必要がある。					
授業の進め方・方法	派遣先にて実習を行う。期間は10日以上である。 毎日の実習には、しっかり準備をして臨むこと。					
注意点	本科4年次では、基礎的な学習体験に力点が置かれているため、十分な学外実習の時間を取ることができなかったが、専攻科では応用力を身につけるためにも、本教科を必修として位置付けている。本科で学んだことおよび専攻科で学習していることを、実際の現場で実践的に学習することに意義がある。また、専攻科修了後、実社会で勤務する場合の実務の内容を知ることによって、専攻科で学ぶ学問の必要性、重要性を認識してもらうための動機付けとしても意味があり、学校では学びことが難しい実社会の仕事の種々な内容、それに対する企業の取り組み方、組織の実態などを考察させることに意味がある。 評価方法は実習報告書および報告会での発表により、以下の項目について総合的に評価する。ただし、必要に応じて受け入れ先からの評価も加味する。また、実習期間により単位認定は1～4単位までとする。 ①実習で与えられた課題に対して、その本質が示されたか。 ②実習で与えられた課題に対して、自ら取り組んだことが示されていたか。 ③発表資料は適切に作成されていたか。 ④実習内容等を説明することができたか。 ⑤質疑に対する応答は適切であったか。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	派遣先での実習		実習現場において、安全教育、ガイダンスの内容等が理解できること。	
		2週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		3週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		4週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		5週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		6週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		7週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		8週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
	2ndQ	9週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	
		10週	派遣先での実習		実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。	

後期		11週	報告書作成	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		12週	報告書作成	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		13週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		14週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		15週	発表会	実習成果について、発表資料を使い口頭で説明でき、質疑に対して応対できること。
		16週		
	3rdQ	1週	派遣先での実習	実習現場において、安全教育、ガイダンスの内容等が理解できること。
		2週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		3週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		4週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		5週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		6週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		7週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		8週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
	4thQ	9週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		10週	派遣先での実習	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		11週	報告書作成	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		12週	報告書作成	実習現場において、現場担当者から与えられた課題を理解、取り組むことができること。
		13週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		14週	発表会資料作成	実習成果について、発表のための資料を作成できること。
		15週	発表会	実習成果について、発表資料を使い口頭で説明でき、質疑に対して応対できること。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	5	
			企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	5	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	5	
			企業における社会的責任を理解できる。	5	
			企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できる。	5	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	5	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	5	
			コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	5	
			実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	5	
			社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	5	
			実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	5	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0